

「藤樹紙芝居のDVD化とそれに伴う指導案の作成・配布」

飯田 典子

平成二十年（二〇〇八年）の中江藤樹先生生誕四〇〇年を記念して、前年の平成十九年（二〇〇七年）より、高島藤樹会教材委員会（現、思想普及委員会）では、藤樹先生の教えや遺徳を紹介する紙芝居を作成してきました。現在では十八作品が完成しています。紙芝居は十八作品全て、高島市内の保育園、幼稚園、子ども園、小学校、中学校や図書館等約五十施設に寄贈され、お話は当該委員会のボランティアの話し手によって上演されていました。

しかしながら、話し手の数に限りがあることや話し手の高齢化と共に、上演の機会があまりなくなってきました。紙芝居を通して、藤樹先生の教えや遺徳を広く学ぶ方法を探ってまいりましたが、このたび紙芝居の絵に声を録音してDVD化するということで、より身近な方法で多くの市民に親しんでいただくことにしました。

今後は、高島藤樹会のビジョンである「温かくて深い、近江聖人中江藤樹の孝の思想を高島から全滋賀へ、全国へ、全世界へ広める」目標



のもと、音声付き紙芝居を、各種学校はもちろんのこと、市内の道の駅や中江藤樹記念館、良知館等の公共施設にも設置したいと考えています。そこで、まず作成した紙芝居十八作品の中から、中江藤樹の「孝」の思想を子どもたちに分かりやすく説いている代表的な作品の「車が田に落ちた」「そばやのかんばん」「馬方又左衛門」、「大野了佐を教える」、「志を立てる」、の五作品を絵に合わせて台詞を録音し、音声付き紙芝居としてDVDに編集する作業を進めております。具体的な作業の手順は以下の通りです。

① 録音準備

録音の会場として、高島市内の安曇川公民館の遮音性がある部屋で、録音用機材を準備します。また、ボランティアグループ人形劇団「あつぷりけ」や高島市民劇団「つばめ」が担当作品を分担し、配役の決定や

台詞の声を紙芝居の絵に合わせる作業をします。

② 録音

紙芝居の台詞は、基本的に高島の地元の言葉遣いや抑揚で表現するようになっていますが、教えを説く場面では高島の地元の言葉遣いを残しつつ、全ての人のとって平均的かつ聞きとりやすい表現にします。また、目の不自由な方やお年寄りの方にもお話の内容を理解してもらえらるよう、登場人物によつて声色を変化させたり、感情を込めて話したりしていただくことで、紙芝居のクオリティを高めめます。

③ 編集

紙芝居の絵に合わせて録音した音源を専門の方にお願ひして編集作業をし、DVD化します。

④ 指導案作成

音声付き紙芝居の大きな役割の一つは、現代を生きる子どもたちに、孝の精神が基底にある道徳教育を行う際の一助にすることです。従って、四十五分ないし五十分の授業で音声付き紙芝居を使ってどのような授業を展開するかを指導案を作成し、DVDに添えます。藤樹会の元教員が指導案の作成を担当します。

以上のような手順で作業を進めてまいりましたが、現在のところ「車

が田に落ちた」、「そばやのかんばん」、「馬方又左衛門」の作品の録音が完了しております。今年度末までに全ての作品を完成させられるよう、鋭意努力してまいりたいと思います。

追記

このたび二〇二一年度未来ファンドおうみ助成事業に申請をしましたところ、本委員会の趣旨が認められ、助成金を頂く運びとなりました。多方面の方々からの期待に応えられますよう、これからも精進してまいります。

